

令和元年度  
なすかしの森  
セカンドスクール2019  
教育事業 報告



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立那須甲子青少年自然の家

# 1 事業の概要

## (1) 趣旨

- ① 当施設がもつ教育環境・教育資源を活用して、学校ではできない教科学習や総合的な学習、特別活動などを体験的な学びながら、基本的な人間関係や学習力・生活力の育成を図る。
- ② 教師として、学習指導の工夫と改善、児童の成長を確かめる場、学級経営を見直す場、更に教師としての資質、能力を高める場とする。
- ③ 子供と離れて過ごす保護者にとっては、我が子に対する愛情を確認する場、自らの子育てを再確認する場とする。
- ④ 教職等を目指す大学生に臨床的・実践的な教育臨床の場を提供し、自己の教育観・職業観の高揚を図るとともに社会的自立の一助とする。
- ⑤ 新学習指導要領の教育課程に沿ったプログラムを提供し実施することで、今後の当施設での学校向けのプログラムの成果及び検証を行う場とする。

## (2) 参加学校、参加人数、期間

西郷村5校、白河市1校、棚倉町3校、計9校の5年生計294名の児童が、令和元年10月中旬～11月中旬まで当施設を利用して、3泊4日または4泊5日の日程で参加した。

実施期間	参加校	学級数	人数
10月21日(月)～25日(金)	棚倉町立高野小学校5年生	1学級	14名
10月22日(火)～25日(金)	棚倉町立近津小学校5年生	1学級	23名
11月5日(火)～8日(金)	西郷村立川谷小学校5年生	1学級	5名
11月5日(火)～8日(金)	西郷村立羽太小学校5年生	1学級	9名
11月5日(火)～8日(金)	西郷村立熊倉小学校5年生	2学級	63名
11月11日(月)～15日(金)	西郷村立米小学校5年生	2学級	39名
11月11日(月)～15日(金)	白河市立表郷小学校5年生	2学級	47名
11月12日(火)～15日(金)	棚倉町立社川小学校5年生	1学級	28名
11月18日(月)～22日(金)	西郷村立小田倉小学校5年生	2学級	66名

# 2 事業の実際 実施例

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6:00		起床・清掃			
7:00		朝のつどい			
7:20		朝食(レストラン)			
8:40		朝の会 ※担任の先生と担当職員の打合せ			
8:50		国語科 「漢字の読み方と使い方」①	国語科 「漢字の読み方と使い方」②	国語科 「声に出して楽しもう」	学活 清掃活動
9:40	学活 ☆入所式・ペットメイク	理科 「流れる水のはたらき」 実際に浸食・運ばん・ たい積の様子を観察	家庭科 「ごはんをみそしるを つくろう」  準備→調理(野外炊事) →会食→片付け	図画工作科 「自然の中で感じたことを」 クラフトプログラムの実施	国語科 「漢字の広場」 算数科 「速さ」⑤ 道徳 「感謝の手紙を書こう」
10:35	国語科 「秋の夕暮れ」①				
11:25	体育科 「持久力を高める運動」				
12:10	昼食(レストラン)		昼食(レストラン)		
13:10	音楽科 「風とケーナのロマンス」	理科 「流れる水のはたらき」のまとめ	国語 「秋の夕暮れ」②	体育科 「フォークダンス」	学活 ☆別れのつどい
14:00	算数科 「速さ」①	算数科 「速さ」②	算数科 「速さ」③	算数科 「速さ」④	
14:45	帰りの会				
15:00	なすかしの森タイム①<宿題等>				
17:00	夕べのつどい				
17:15	夕食(レストラン)				
18:00	なすかしの森タイム②				
	計画づくり	ナイトハイク/星空観察	キャンドルファイヤー練習	キャンドルファイヤー	
19:30	入浴				
20:00	ふりかえり				
21:00	就寝				

### 3 児童の意識調査概要

参加児童にとって、どのような教育的効果があるのか測定するために意識調査を行った。

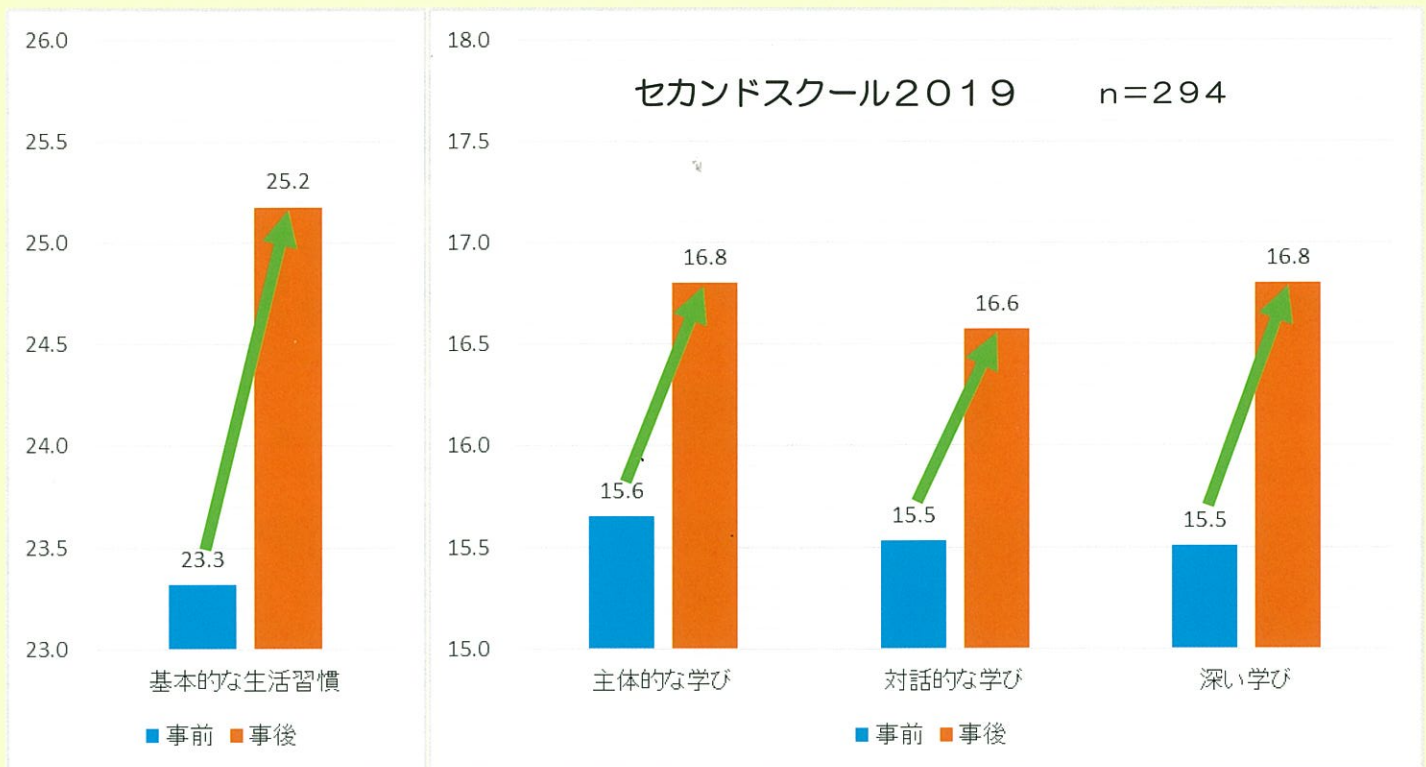
調査指標は、昨年度から新たに作成した項目を利用した。「基本的な生活習慣」と、新学習指導要領の柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の4つのカテゴリー22項目の質問を4件法で回答するものとした。

質問項目ごとに4段階評価で求めるもので、評価はそれぞれ「まったくあてはまらない」(1点)から「とてもよくあてはまる」(4点)の4段階で得点化した。グラフは、得点の合計値の平均を示した。アンケートの記入は、「事前」が初日の出会いのつどい、「事後」が別れのつどいに行った。

#### (1) 調査票

セカンドスクール 調査 (事前)		事 前
( 組 ) ( 出席番号 番 ) ( 男 女 ) 名 前		
学 年 小学校 ( 5 年 生 )		
アンケートの答え方		
<input type="checkbox"/> 下の質問(しつもん)をよく読み、自分にあてはまるかどうか、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4段階(だんかいはい)で答えてください。 <input type="checkbox"/> 自分が、もつともあてはまると思うところに、例(れい)のように○印をつけてください。 <input type="checkbox"/> 学校や普段の生活を思い浮かべて答えてください。あまり考えすぎずに答えてください。 ・アンケートの結果(けっか)と、学校の成績(せいせき)やセカンドスクールの指導(しどう)とはまったく関係(かんけい)ありません。 ・ひとりひとりのことを調べるのではなく、セカンドスクールに参加(さんか)した子どもたち全体のことを調べています。 ・ひとりひとりの結果(けっか)を公表(こうひょう)したり、他人に言ったりすることはありません。		
例. 人との約束が守れる (れい) 人との約束が守れる	とてもよくあてはまる 4      3      2      1  ----- ----- ----- -----             ○	まったくあてはまらない
<b>【基本的な生活習慣】</b>		
1. あいさつは、自分からはっきりと言える	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
2. 人の話をきちんと聞くことができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
3. 時間を守って、生活することができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
4. 身の周りの整理・整頓・清掃ができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
5. バランス良く、食事をとることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
6. 「早寝・早起き」ができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
7. 朝ごはんを必ず食べる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
<b>【主体的な学び】</b>		
8. 学校の学習以外でも、興味関心をもって、取り組むことができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
9. 計画を立てて、生活(学習)することができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
10. わからないことは、そのままにしないで調べることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
11. 生活(学習)の中で、問題点や課題を見つけることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
12. 生活(学習)をふり返り、次の生活(学習)をより良くしようとする	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
うらへつづく→		
<b>【対話的な学び】</b>		
13. 自分の考えや意見を伝える(発表する)ことができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
14. 相手の意見を聞いて、自分の考えに取り入れることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
15. 仲間と意見を交換しながら、学んだ内容をまとめることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
16. 身の周りの人と相談して、生活(学習)をより良くしようとする	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
17. 学んだことを自分の言葉で、相手に説明することができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
<b>【深い学び】</b>		
18. 学んだことや調べてわかったことから、自分の生活(学習)に役立てようとしている	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
19. 学んだことをもとに、自分の考えを深めることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
20. 学んだことをもとに、新しい課題を見つけることができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
21. 学んだことをもとに、課題を解決することができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
22. 学校以外でも、学んだことを生かして新しいことに取り組むことができる	4    3    2    1  ----- ----- ----- -----	
アンケートは、これで終わりです。ありがとうございました。		

## (2) 各項目の分析と考察



### 【基本的な生活習慣】

事前から事後にかけて1.9ポイント向上した。個別の項目では、「6. 早寝早起きができる」が0.5ポイント向上、次いで「5. バランスよく食事をとることができる」が0.4ポイント向上している。

### 【主体的な学び】

事前から事後にかけて1.2ポイント向上した。個別の項目では、「11. 生活(学習)の中で、問題点や課題を見つけることができる」が0.3ポイント向上している。

### 【対話的な学び】

事前から事後にかけて1.1ポイント向上した。今後は、意図的な対話の場をなすかしの森タイムにおいても、スクールタイムにおいても設けていく必要がある。また、なすかしの森タイムとスクールタイムのつながりを深めることも大事だといえる。

### 【深い学び】

事前から事後にかけて1.3ポイント向上した。個別の項目では、「17. 学んだことをもとに新しい課題を見つけることができる」が0.2ポイント向上している。教科等に関連付けた体験活動を行ったことで、机上の学びと実際の体験を結びつけることができたと考えられる。また、なすかしの森タイムにおいて、キャンプ(キャンドル)ファイヤーを創り上げるという課題を仲間と話し合いながら達成できたことも大きな要因と考える。

### 【考察】

事前から事後について、すべてのカテゴリー、個別の項目のポイントが向上しており、この事業は「児童の学び」に効果があると言える。特に【基本的な生活習慣】においては、標準時間を設けた集団生活を行っているということで、大きな効果としてあげることができる。いわゆる“ななめの間関係”である教育支援スタッフの存在も大きな影響を与えていたのであろう。また、「教科等に関連付けた体験活動プログラム」として、教職経験者でもある施設職員と学校職員とが連携して行い、1週間の中で体験活動の振り返りまでを行うことで、一連の学習の流れが生まれ、主体的・対話的で深い学びの実現に近づけることができたと考えられる。学校ではどうしても細切れになってしまう学習活動を1週間という期間の中で計画を立てられたことがよかったのであろうと考察できる。そして、教職員に対するカリキュラムマネジメントへの意識付けにも効果的であったと感じている。

### (3)項目別のアンケート結果より

#### 【基本的な生活習慣】

- ①児童聞き取り調査から
  - ・ 時計を見ながら、5分前行動を意識して行動することができるようになった。
  - ・ 準備や後片付けなど、自分のことは自分でできるようになった。
- ②保護者アンケートから
  - ・ 一人で起床するなど、自ら進んで生活する姿が増えた。
  - ・ 家事などを手伝う姿が多くなった。
  - ・ 多少ではあるが、SNSやメディアへの執着がなくなったと感じる。
- ③教員アンケートから
  - ・ 自分で判断して行動する姿が目立ってきた。
  - ・ 給食を残さずに、バランス良く食事する姿が増えた。



#### 【主体的な学び】

- ①児童聞き取り調査から
  - ・ 自分で考えて判断して行動する姿が増えた。
  - ・ 自らの考えを表現できるようになった。
- ②保護者アンケートから
  - ・ 宿題など時間を決めて取り組む姿が多くなった。
  - ・ 分からないことは、辞書を使って調べたりノートを振り返ったりして解決しようとする姿が増えた。
- ③教員アンケートから
  - ・ 学校ではなかなかできない活動が、子供たちが意欲的に取り組む要因になっていると感じる。
  - ・ 長期の宿泊体験学習で、「自分でも出来る」という自信をもつことができたのではないだろうか。また、結果として「できないことも友達がいればできる」という協力心が育まれることになった。



#### 【対話的な学び】

- ①児童聞き取り調査から
  - ・ 以前よりも、友達と声を掛け合って学習に取り組むことができるようになった。
  - ・ 実際に、友達と同じ川の様子を観察したはずなのに、違った感想やおもしろい発見があった。
- ②保護者アンケートから
  - ・ 学校での生活の様子を、以前より積極的に話してくれるようになった。
  - ・ 子供の成長を通じて、家族の会話が増えたように感じる。
- ③教員アンケートから
  - ・ セカンドスクールを通して互いを知る機会となり、本音で話し合えるようになった。また、友人関係が深まり、相手のことを考えて行動することが増え、優しい言葉遣いができるようになった。

#### 【深い学び】

- ①児童聞き取り調査から
  - ・ 友達との繋がりが強くなったと感じる。
  - ・ 以前は失敗を怖がっていたが、前向きに取り組もうとする気持ちが増えた。
- ②保護者アンケートから
  - ・ 子供にとって、教育支援スタッフとの出会いや別れといった感動経験がとても良いと思う。その結果、子供達は何事にも自信を持ったように感じる。
- ③教員アンケートから
  - ・ セカンドスクールを通して、みんなで楽しく活動するためには、きまりを守ることや、相手のことを考えて行動することが大事だと気づくことができた。
  - ・ 教育支援スタッフが児童と共に生活し、児童の変容を目の当たりにして児童に伝えるという、第三者的関わりの教育効果が大きいと感じる。

#### 4 保護者・教員・職員のコメントより

##### 保護者より

- ・ 4泊5日の宿泊活動は長いように感じたが、帰ってきた子供の様子を見るとそのくらいの日程がなければ、子供の成長につながらないのかと、改めて感じました。2泊程度では出来ない体験をしてくるので、子供の成長過程として、とても貴重な経験だと思います。
- ・ 日頃、テレビやスマートフォン等に長時間依存している日々から離れて、自然の中で友人と思い出をつくったり様々な体験をしたりすることができるので、心から感謝いたします。
- ・ 教育支援スタッフの学生と過ごせたことがとても嬉しかったようです。一生に一度の体験だと思うので、これからも子供が楽しむことができ、たくさん学ぶことができる体験の場であって欲しいです。
- ・ 期待は、思っていたよりはダメでした。ダメというのは、たぶんそれ以上、これ以上にと、こちらが一方的に成長を望んでしまっていたからだと思います。不安は、帰ってきた時の感想を聞いて無くなりました。

##### 教員より

- ・ 午前中は教科指導、午後は那須甲子の自然環境を活かした体験活動と割り切った時間割を組み、月～木の午後は連続した1つの学びを実施することができる、児童にとってより深い学び（体験）になる。
- ・ 身近な自然の中に学びに活かす要素がたくさんあるということに、改めて気づかされました。学校では、行事や授業に追われ急ぐことばかり優先しがちでしたが、児童の考えを促し、待ち、自ら考えて行動することができるようにする取り組みが大切だと、セカンドスクールから強く感じました。
- ・ 児童にとって、座学だけではなく体験活動を通して、友達とコミュニケーションを図りながら学習することができたのは、貴重な経験だと思います。
- ・ 理科の「流れる水のはたらき」は実際に自分の目で川の流れを見ることができたのは良い経験になったと思います。また、他校と合同授業が実施できたことも児童にとって良い思い出になりました。

##### 施設職員より

- ・ 施設職員として担当教員と、教育課程とプログラム編成におけるカリキュラムマネジメントを試みたり、事前打合せや保護者説明会でセカンドスクールへの不安や疑問を共有したりすることで、各校のニーズを踏まえたセカンドスクール運営の視点をもつことができた。
- ・ 体験活動を教科等に関連付ける方法を模索し、カリキュラムマネジメントの視点でスクールタイムを行うことで、なすかしの森で行う良さを提案することができた。また、なすかしの森タイムでの経験が、これからの生活に生きてほしいと願っている。
- ・ 非日常的な生活環境や人間関係の中で生活することで、子ども達は素晴らしい経験をする事ができたと感じている。学習面でも、那須甲子だからこその体験学習活動を提供するために、学びの流れ（思考の流れ）を意識したカリキュラムマネジメントを担当教諭に提案することができた。
- ・ 担当職員として、なすかしの森タイムでの振り返りの時間を大切にしたい。1日の反省をもとに目標を話し合うことで主体的な行動に繋がるなど、児童だけではなく教育支援スタッフの成長を見ることができた。

5 「教科等に関連付けた体験活動プログラム」に関連した単元の実施状況

参加校	国語科	理科	社会科	総合	体育科	図画工作科	家庭科
小田倉小				・なすかし 冒険ビンゴ		・自然の中で 感じたことを (焼き板作り)	
熊倉小		・流れる水のはたらき ※1		・餅つき 豚汁づくり ※1		・自然の中で 感じたことを (焼き板作り)	
米小		・流れる水のはたらき	・私たちの生活と森林 ※2	・昔の農家の 住まいや暮らし		・自然の中で 感じたことを (焼き板作り)	・食べて元気に (ピザづくり)※3 ・じょうずに使おう お金と物 (買い物)
羽太小	・秋の言葉 (俳句づくり)	・流れる水のはたらき	・私たちの生活と森林				・食べて元気に (ピザづくり)※3
川谷小		・流れる水のはたらき ※1		・紙ずき体験 ※2		・自然の中で 感じたことを (焼き板作り)	・食べて元気に (野外炊事体験)
表郷小		・流れる水のはたらき ※1	・私たちの生活と森林 ※1			・自然の中で 感じたことを (焼き板作り)	・食べて元気に (野外炊事体験)
近津小	・秋の言葉 (俳句づくり)	・流れる水のはたらき	・私たちの生活と森林		・体力を高める運動 (運動広場利用)	自然の中で感じたことを (しおり作り)	・食べて元気に※3 (ご飯・豚汁づくり) 【高野小合同】
社川小		・流れる水のはたらき ※1	・私たちの生活と森林			自然の中で感じたことを (焼き板作り)	・食べて元気に (野外炊事体験)
高野小		・流れる水のはたらき				自然の中で感じたことを (焼き板作り)	・食べて元気に※3 (ご飯・豚汁づくり) 【近津小合同】

【※指導体制：※1…当所の研修指導員 ※2…エコシステムアカデミー ※3…当所のレストラン職員】

6 セカンドスクールの成果と課題

【成果】

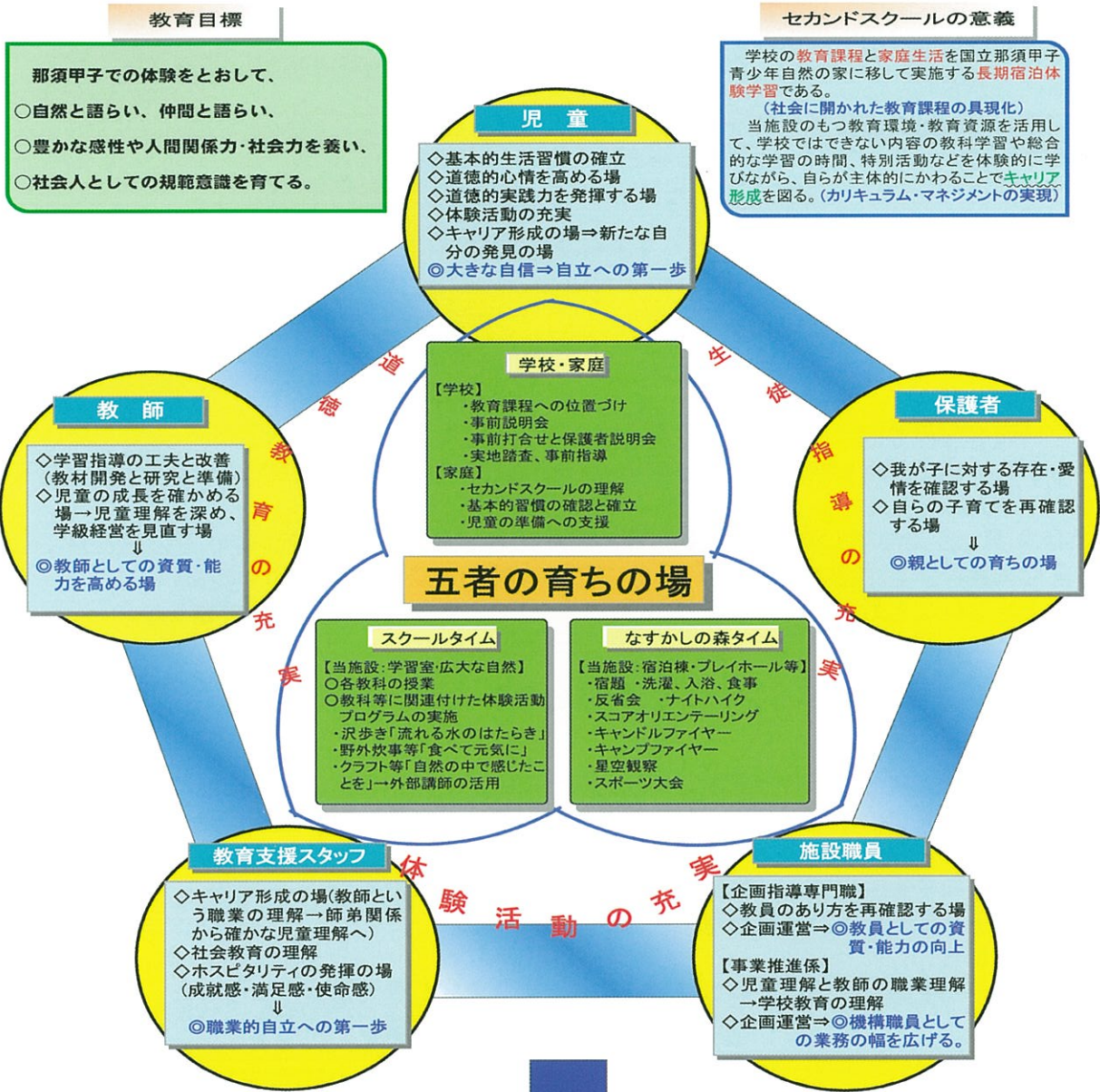
- 参加児童は、学校と当施設とで連なった学習活動の中で、実感的な学びを深めることができた。(調査概要参照) また実施期間中、家族と離れることで衣食住の大切さやノーメディア経験による仲間との時間の過ごし方の大切さを実感する姿があった。
- 担当教員は、教職経験者である施設職員と連携して自校の教育目標に基づいたプログラム(時間割)作成を行うことで、当施設の教育資源や環境を有効に活用することができた。
- 教育支援スタッフは、児童に教育目標の達成を目指すべく、担当教員や施設職員と授業の端々で連携を密にし、同じ目線で児童と接することで信頼関係を構築することができた。その結果、教育支援スタッフとの別れを惜しむ児童の姿が随所に表れた。
- 施設職員は、児童や教育現場の実情、教員のニーズに応えながら事業運営を図る視点を育むことができた。

【課題】

- 学校側の負担感が大きいという指摘もあるため事前の打合せ等を密にし、担当教員とカリキュラムマネジメントの視点を重視しながら負担軽減を図る必要がある。
- 外国語活動や道徳教育の教科化に併せた「教科等に関連付けた体験活動プログラム」の開発を図り、参加校がセカンドスクールの活動に授業単元を転嫁し易くするプログラム提供を図ることが求められる。
- 教育支援スタッフの募集が定数に至らなかった。教育活動を充実させるためにも、主要大学に学生への教育的効果を発信し、人員の確保を図る必要がある。

# ～五者の育ち～

## なすかしの森 セカンドスクールランドデザイン



**将来の自分への第一歩**

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

**国立那須甲子青少年自然の家**

〒961-8071 福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1  
TEL0248-36-2331 FAX0248-36-2150  
<https://nasukashi.niye.go.jp>